

# アジア・新興国 ～共産国が「自由貿易」を標榜する奇妙さ～

経済調査部 主席エコノミスト 西濱 徹(にしはま とおる)

## バランスの上で求心力を高めるBRICS

7月、南アフリカのヨハネスブルクでBRICS5ヶ国(ブラジル、ロシア、インド、中国、南アフリカ)の首脳会議が開催された。今回の会議テーマは「アフリカにおけるBRICS」と銘打たれ、5ヶ国の首脳に加えてアフリカ諸国のほか、トルコ、アルゼンチンなど3ヶ国の首脳も参加するなど例年のない規模で開催された。BRICS諸国は2000年代以降、高い経済成長を追い風に経済規模が急拡大し、昨年時点の5ヶ国経済規模は世界全体の23%と5分の1強を占める。ただし、ここ数年は勢いに陰りが出ていたほか、利害が一致しないなかで足並みが揃わず、存在感低下に拍車がかかっていた。

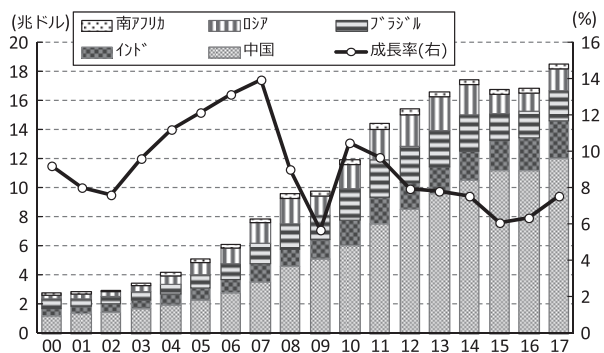
しかし、足下では米トランプ政権の保護主義姿勢を契機に貿易摩擦の動きが広がっており、新興国経済への悪影響が懸念されている。また、先進国の金融政策正常化の動きは新興国からの資金流出圧力を招くリスクがある。よって、各国の思惑は必ずしも一致しないものの、米トランプ政権の自国優先姿勢への『対抗軸』としてBRICSの求心力が高まった格好だ。ただし、今回オブザーバー参加した国々は、いずれも中国の資金力への打算が働いた可能性が高い。よって、BRICS自身が求心力を高めている訳ではなく、各国の思惑、中国が自らを前面に出さずに影響力を行使する舞台装置、というバランスの上に成り立ったものと捉えられる。

## 新興国を巻き込んで体制転換を目論む意図も

一連の会議では、中国の習近平国家主席が登場し、米トランプ政権の保護主義的な通商政策を念頭に貿易競争回避の重要性や、多国間主義を通じた国際協調の重要性を語った。その上で、習氏は中国市場の開放を進めるなど、中国が『自由貿易の旗手』となる姿勢を示した。なお、習氏は昨年1月ダボス会議でも自由貿易の重要性を高らかに語っている。その際も、習氏は改革開放路線の堅持に加え、中国市場の開放を進めることで、アジア太平洋自由貿易圏(FTAAP)構想や東アジア地域包括的経済連携(RCEP)を主導する考えを示していた。

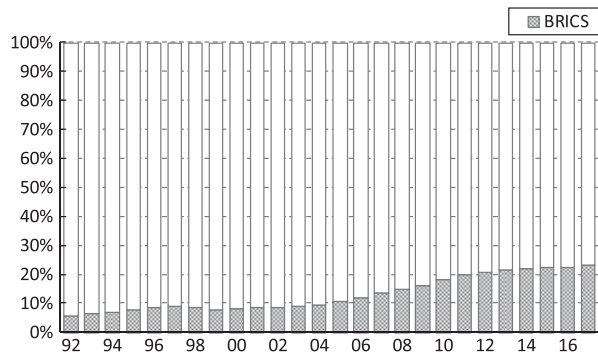
他方、昨年秋の共産党大会や今年春の全人代(全国人民代表大会)などを通じて、習政権は強権かつ独裁的な色合いを強め、中期的目標に「現代化された社会主義強国」とする既存秩序と異なる国を目指す姿勢をみせた。また、米中貿易摩擦が激化する中で、市場開放の前進を示唆するが、過去の合意内容に留まり、自らの異質性を放置しながら『自由貿易の旗手』然として振舞う異様さは否めない。また、BRICSを軸に世界経済のガバナンス体制の転換を目指す方針を示し、中国がその動きを主導する考えをみせている。様々な面で既存秩序との軋轢を生む中国が新興国を束ねる違和感はなくすがるが、資金力を背景にそうした動きを強める中、わが国の立ち位置が試される局面が続くであろう。

資料1 BRICS諸国の経済規模と成長率の推移



(出所) IMFより第一生命経済研究所作成

資料2 世界経済に占めるBRICS諸国の比率の推移



(出所) IMFより第一生命経済研究所作成